

片岡 茂夫

安心、安全の地域ま
ちづくりについて

問 全国各地で凶悪な事件が毎日のように発生している。総社警察署管内の犯罪発生状況は、平成18年は前年と比べると総数では減少している。これは、各地域の防犯パトロールの成果と警察の方では言っている。自主防犯パトロール隊の青色回転パトローラー（通称青パト）の現状はどうか。犯罪防止等にもつながるため、青パトをふやしてはどうか。それに伴う、手続、器具、その他経費の補助はどうか。また、青色防犯灯の効果をどのように考えているか。

答 青パトの現状は、市内町内会16団体が警察署に登録、町内の巡回等を実践していただいている。青パトをふ



自主防犯パトロール隊の青色回転パトローラー

やすことについては、現在2つの団体から相談を受けている。町内会等の自治組織の各種活動に、5万円を限度に申請により補助金を交付している。防犯活動についても補助金を交付していることから、地域の安全は地域で守るという意識が徐々に浸透しており、自主防犯パトロール隊のすそのは広がっているものと考えている。経費の補助についても、総社市自治組織活性化補助金を活用いただきたい。青色防犯灯の効果に

観光行政について

問 フィルムコミッションの取り組みについて、岡山県内で昨年から2本の映画のロケがあった。「バッテリー」と「釣りバカ日誌18」である。ロケ地の話が本市にもあったのかどうか。ロケを誘致するにはお金も要るし、市民の多くの協力も必要であるが、本市にもよそに負けないロケ地がたくさんある。観光に力を入れていく以上、映画のロケ等も誘致しなくてはいけないのではないか。

答 フィルムコミッションの具体的なメリットは、当該地域の情報発信ルートの増加や撮影隊による直接的経済効果、作品を通じて観光客が増加する間接的経済効果等があるので、前向きに検討してまいりたい。本市においても、恵ま

松浦 政利

有機無農薬米について

問 有機無農薬を学校給食に提供すること

は、大賛成であるが、農家にとつて農薬を使つてはならないことになり、大変なことである。学校給食に必要な米は800俵程度と聞かすが、そのうちの程度の有機無農薬米が確保できるのか。ほんとうに確保できるのか。有機無農薬農産物の栽培を推進するために、JAS認定農家及び栽培地の指定を段階的に推進していく必要があると思うが、具体的にはどのように取り組むのか。

答 学校給食に必要な米は年間約50トンである。1俵60kgで計算すると、833俵になる。現時

点での作付面積は、有機JAS認定のものが2ha、未認定ではあるがJASと同様なつくり方のものが0.8ha、特別栽培米（減農薬）のものが10ha、合計12.8haの作付を予定しており、特別栽培米を合わせると大体必要量は確保できる。JAS認定農家の育成の指定については、有機農業の講習会を開催したところであるが、今後においても岡山農業開発研究所が行う講習会への参加案内を行い、一層の推進をしてみたい。栽培地域指定については、地域を限定することは難しいが、有機農業については、作物の地域性を考慮した上で、市内全域を推進してまいりたい。（市長）

地球温暖化について

問 本市の行政活動に

よつて排出される温室効果ガスの削減に、どのように取り組んでいるのか。全体的な目標値をどの辺に置いているのか。それを市民に知らせていただきたい。



環境にやさしい太陽光発電

と使用量は全体で38%の削減となつており、本庁舎だけで申し上げると42%の削減となつており効果が出ています。2050年までに現在のCO2排出量を2分の1にしなければならぬ。太陽光発電の導入状況は、公共、産業用施設が7件、一般住宅が328件であるので御理解いただきたい。（市長）

頓宮 美津子

妊産婦無料検診の拡
充について

問 従来国の妊婦検診費

の助成は、おおむね2回として財政措置されてきたが、平成19年度では子育て支援事業と合わせて約700億円に増大した。この拡充は、妊産婦検診の助成に限ったものではな

このほか、生ごみの堆肥化及び職員の人事管理について質問をしています。

産・官・学の連携に
ついて

問 県立大学では、総社

市の文化や伝統を生かす、デザインされたものがある。本市においてさまざまなまちづくりやイベントも、県立大学との連携か

ら生まれたものも数多くある。県立大学は、地域貢献活動を全学横断的に推進してきたが、本年4月に公立大学法人に移行され、より一層地域貢献活動に努めていく方針である。これらの地域活性化、まちづくりにさらに産・官・学の連携を求め、実施に向け取り組みをきと考えるがどうか。

答 本年度岡山県立大学

いて、不登校傾向の子どもやその保護者を対象に、ふれあい体験活動を実施しているが、県立大学等の学生に支援をいただいている。中学校では、別室登校している生徒に対しても、支援をいただいている。こうした取り組みを、今後、市内の各学校に広め、教育においても大学等との連携を一層推進し、教育の質的向上を図るとともに、地域活性化、あるいは心豊かなまちづくりにつながっていくようにしたい。（教育長）



産・官・学の連携を深める岡山県立大学